

ひろしま郷土資料館だより

NO.99



浅野氏広島城入城400年記念事業

特別展「広島町新開絵図にみる浅野時代の広島城下」

会期：令和元年12月7日（金）～令和2年2月24日（月・振）



「広島町新開絵図」（広島市市民局文化スポーツ部文化振興課蔵）

「広島町新開絵図（以下、町新開絵図と表記）」は享保13年（1728）に作成された広島城下の絵図です。縦220cm、横354cmと非常に大きく詳細な調査が難しい資料でしたが、近年高画質での写真撮影を行った結果細部の調査が可能になり、当時の広島城下町について色々なことが分かってきました。本特別展はこの絵図を通して浅野時代の広島城下がどのような状況だったのかを探る内容でした。

町新開絵図の特徴の一つとして、城下町のうち町人町と新開地が詳しく描かれていることが挙げられます。行政的に特別な区域で藩政の中心地だった城下町は、単に町人町だけでなく、侍町や、干拓によって南に向かって広がった新開を含むという特殊な構成になっていました。現在残されてい

目次

P 1-3 特別展「広島町新開絵図にみる浅野時代の広島城下」
図録新刊紹介

P 3-4 企画展「安芸の名産・特産－広島藩の殖産興業－」

P 4-5 企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

P 5 パネル展示「すずさんの四季の暮らしノート」

P 6 「駄菓子作り広場」

活動報告 教室事業日程一覧

（令和元年10月～令和2年3月分）

P 7 活動報告 郷土史講座・その他事業

（令和元年10月～令和2年3月分）

P 8 次年度企画展の予定

る城下絵図の多くは広島城や侍町の描写が詳しく、町人町や新開については省略されていることがほとんどなので、新開絵図からは他の絵図では分からない貴重な情報を得ることができます。

また、絵図を作成させた人がハッキリしていることも特徴として挙げられます。享保6年(1721)に町奉行龍神武左衛門が画工の清三郎に命じて城下絵図を作らせました。その7年後に同じく町奉行だった明石弥一右衛門がそれを基にして清三郎に改めて作らせたのが本資料です。町人町と新開地の描写が詳しいのは、両地域を管轄していた町奉行が作成させたためでしょう。作図にあたっては町奉行の指示で2名の部下が実地踏査を行っており、記載内容の信ぴょう性が高いのも特徴の一つと言えます。

では町新開絵図から「城下町の排水事情」を見てみましょう。太田川デルタ上に築かれた広島城下には一つ弱点がありました。それは良質な地下水に恵まれていないことで、塩分が強く飲み水には適しませんでした。自然と生活用水は川に頼ることになりますが、もし生活排水を川に流してしまうと水が汚染されることになります。

図1は当時の胡町・東引御堂町・堀川町(現在の中区胡町・堀川町界限)の様子で、やや太く描かれている道が西国街道、短冊状に区切られているのは町屋、灰色で一緒に塗りつぶされているの



図1 胡町・東引御堂町・堀川町



図2 大須新開東端の樋門

図1・2とも「広島町新開絵図」(広島市市民局文化スポーツ部文化振興課蔵)より

は侍町になります。これをみると、南北・東西方向に水路が張り巡らされているのがわかります。生活排水は町屋の裏手に設けられた水路に流され、最終的には南北に敷設された水路を通して海岸線から海に向かって流されていました。なお、この水路には雨水や新開の農業用水も流されたようです。

最終的にこの排水が到達する城下南端の新開は、冒頭で述べたとおり干拓で拓かれた土地でした。城下の海岸線には常に太田川が運んでくる土砂が堆積しており、形成された浅瀬に堤防を築いて干拓が行われました。この干拓堤防には排水のための水門(樋門)が設けられていて、広島町新開絵図にもその様子が描かれています。もし樋門が満潮時に開いていれば水が逆流するので、これらの樋門には戸が設けられていました。図2は当時の大須新開東端に設けられた樋門の様子で、現在の南区大州四丁目の広島市大州ポンプ場から府中大橋間の府中大川西岸になります。この干拓堤防には3つの樋門が設けられています。そのうち一つには南蛮樋と書かれていますが、これは樋門に設けられた3枚の戸板を轆轤ろくろで上下に動かして開閉するという大掛かりなものです。あとの2つは戸板

1枚を上下に動かして開閉するタイプで、設備はもっと簡素でした。

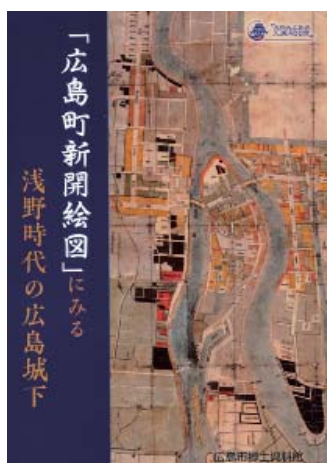
また、図2でもお分かりのとおり、干拓堤防の内側には貯水地が設けられています。これは潮廻しと呼ばれるもので、流れてきた排水を一時貯水する場所でした。また、干拓堤防からにじみ出る塩水を受け止めて、排水時に再び海に戻すという役割もありました。この潮廻しの一部に飛び出した場所がありますが、これは堤防が決壊した時に流れ込んでくる水流によって抉れてできたもので、落ち堀りと呼ばれるものです。この落ち堀りと潮廻しの一部が、現在大須四丁目3・5番ブロックに残されています。

町新開絵図はこの他にも城下町について様々な情報を提供してくれる貴重な資料です。みなさんにも是非関心を持っていただければと思います。

会期中の来館者：3,443人

(本田美和子)

新刊紹介 特別展図録「『広島町新開絵図』にみる浅野時代の広島城下」



浅野時代の享保13年(1728)頃の城下町の様子を描いた「広島町新開絵図」から当時の街の中心部や拡大した新開地の様子を紹介します。

●目次

はじめに
目次・凡例
広島町新開絵図とは
描かれた城下中心部
描かれた新開地
描かれた樹木
掲載図版一覧

参考文献

謝辞・奥付

定価：800円(税込)
送料：310円(ゆうメール)
発売：令和元年(2019)12月7日
A4判 53ページ(カラー)



浅野氏広島城入城 400 年記念事業

企画展「安芸の名産・特産－広島藩の殖産興業－」

会期：令和2年3月7日(土)～5月6日(水・振)→臨時休館に伴い会期変更

令和2年は浅野長晟が広島城に入城して400年の節目の年にあたります。本企画展はそれに合わせて企画したもので、浅野氏統治下の広島藩で生産された特産品について紹介しています。展示は、1. 広島藩の特産品の歴史、2. 記録・地誌に見られる広島藩の特産品、3. 献上品に見られる特産品、4. 広島藩の主な特産品、5. 番付に見られる広島藩の特産品、以上の5部構成とし、古文書・絵図・写真資料など約70点を出版しました。

さて、浅野長晟が2代将軍徳川秀忠から広島藩を拝領し、広島城へ入封したのは元和5年(1619)8月のことで、長晟は入国直後から新たな国づくりを進め、2代光晟の時期、17世紀後半に藩政の基礎が確立しました。この時期は全国各地で大規模開発、治水工事、交通網の整備が行われ、農業をはじめとする各分野の技術も向上し、日本全国が著しく豊かになっていった時期にあたります。こうした経済発展の背景にあったのが特産品です。各地でその土地にあったものは何か、それが売れるかどうかを考えて物がつくられるようになり、その後も様々な特産品の開発・生産・販売が展開されました。当初、広島藩は特産品の生産に対して保護・育成の方針を取りましたが、藩の財政が悪化した18世紀以降は財政補填の手段として管理統制を進め、主要国産品への課税や専売(藩の独

占販売)制を実施しました。さらに18世紀後半からは、藩内で必要な物資の自給自足化を進める「国益政策」が展開され、官民あげて特産品の開発・生産・販売が進められました。

今回の展示では、広島藩の主要特産品のなかから、牡蠣、海苔、木綿、山繭織、麻苧、紙、塩、鉄を取り上げたほか、浅野家から將軍家へ贈答品として送られていた鮎のウルカ（塩辛）や西条柿などの特産品も紹介しています。本企画展が郷土広島の産業史に対する関心を高めるきっかけとなれば幸いです。



魚目録 安芸高田市立歴史民俗博物館蔵
江戸の藩営築場で捕れた鮎の目録

最後になりましたが、本展の開催にあたって多大なご協力・ご指導を賜りました資料所蔵者ならびに関係者のみなさまに心から厚くお礼申し上げます。（篠原達也）

※本企画展の会期は、令和2年3月7日（日）から5月6日（水・振休）までと予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止のため2月29日（土）から臨時休館しております。3月31日の時点で、会期については以下のように予定しておりますが、今後の状況次第で変更になる可能性もあるのでご了承ください。

開催予定日：4月14日（火）【予定】

終了時期：7月5日（日）

最新情報はホームページまたは電話にてご確認ください。

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

会期：令和元年9月7日（土）～11月24日（日）

毎年恒例の当企画展は本年度も期間中、小学校4年生の国語科で『ごんぎつね』および小学校3年生の社会科「くらしのうつりかわり」を学ぶ市内及び近隣小学校の皆さんが多数来館され、私たちスタッフも、展示解説や昔の道具体験指導で、子どもたちと一緒に元気ある日々を過ごしました。

新美南吉作の童話『ごんぎつね』は、昭和55年（1980）から小学校4年生の全ての国語教科書に採用され、世代を超えて親しまれている名作で、南吉の故郷・半田市岩滑（現愛知県半田市）を舞台に、南吉が小さい頃、村に住むおじいさんから聞いたというお話です。小ぎつねのごん、そして兵十たち村人が織りなすストーリー展開のなかで、秋の景色や秋の味覚、昔の道具もたくさん登場し、各場面に彩りを添えています。

そこで本展ではストーリーに沿って、当館所蔵の木製品・ワラ製品・稲作農具などの資料を用いて情景の再現展示を行い、童話の世界へと誘いました。またこの作品には、今や知る人の少ない光景や風習が自然に描かれています。例えば、兵十の母親が亡くなり自宅で葬式をする場面があります。兵十の家の外の井戸端では、村の女たちがかまどで食事を作っています。昔、村では相互扶助という意識が強く、労働や冠婚葬祭を共同で執り



共同で使用する食事をもてなす昔の道具

行なっていました。また、もてなしに用いる調理道具や膳などの食器は、数を揃えて共同の蔵に納め、特別の日に備えました。母親の野辺送り（葬列）の場面では、兵十が白の袴^{かみしも}を着用し、昔は喪服が白であったことも窺えます。ラストでは、ごんが栗を持って兵十の家に行くと、兵十が縄をなっている場面があります。農作業の合間には、兵十のようにワラ製品や衣類の製作、狩猟・漁撈具の手入れを行うなど自給自足性が高く、次の稲作に向けての準備も行われました。

このように『ごんぎつね』の世界には、昔懐かしい魅力が詰まっており、今後も子どもたちにその奥深さを伝えていきたいと思います。

会期中の来館者数：12,591人

（山縣紀子）

パネル展示「すずさんの四季の暮らしノート」

会期：令和2年2月28日（金）～5月6日（水・振）→臨時休館に伴い会期変更

映画「この世界の（さらにいくつもの）片隅に」は、平成28年（2016）の公開からロングランを記録し大きな反響を呼んだ映画「この世界の片隅に」に250を超える新たなカットが加えられた長尺版で、令和元年12月から全国で公開が始まりました。今回の作品では、すずさんとリンさん、周作の3人の人間関係とそれぞれの複雑に揺れ動く心情とともに、四季の変化と日々の暮らしが色鮮やかに描かれ、登場人物の個々の人物像や彼らが生きた時代の生活と季節感をより一層リアルに感じられる描写が話題となっています。

この度のパネル展示では、「この世界の（さらにいくつもの）片隅に」でより鮮明に描かれた四季の描写と人びとの生活に関する20項目をピックアップし、戦時下にあいながら四季に応じた人びとの日常生活や当時の広島や呉の様子について、映画のカットと戦前から戦後にかけての四季の暮らしに関する写真資料を交えてご紹介しました。あわせて、1階常設展示室内「昭和の茶の間と台所」を戦時中の生活の様子に模様替えし、行火^{あんか}や火鉢など映画にも登場する冬の生活道具を加えた実物資料で構成した「戦時中の茶の間と台所《冬》」として再現展示を行いました。

作品の時代背景となった昭和19～20年（1944～45）は、戦局が悪化する中で生活に必要なあらゆる物資の不足と統制によって人びとの生活が大きな影響を受けた時代でもあります。そのような時代背景の中にあいながらも知恵と工夫を凝らし、四季に応じて身近なものを巧みに利用しながらたくましく生き抜こうとした人びとの姿を今一度見つめる機会となれば幸いです。



（川橋奈織）

展示状況

※本企画展の会期は、令和2年2月28日（金）から5月6日（水・振休）までと予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止のため2月29日（土）から臨時休館しております。3月31日の時点で、会期については以下のように予定しておりますが、今後の状況次第で変更になる可能性もあるのでご了承ください。

再開予定日：4月14日（火）【予定】

終了時期：7月5日（日）

最新情報はホームページまたは電話にてご確認ください。

イベント「駄菓子作り広場」 実施日：令和元年11月3日（日・祝）

11月3日は国民の祝日「文化の日」。文化に親しむことが推奨されているこの日は、各地で文化イベントが開催されたり、美術館や博物館などが無料開放されます。郷土資料館においても、入館料を無料とするとともに、参加体験型イベント「駄菓子づくり広場」を開催してきており、今回で14回目となります。昨年と同じく「ポップコーン」「一銭洋食」「わらびもち」「ラムネ菓子」「綿菓子」の駄菓子づくり5ブースと、「スーパーボールすくい」「型抜き」の懐かし遊び2ブースを用意し、老若男女を問わずすべての来場者の皆さまに楽しんでもらえるよう、万全の準備で臨みました。

例年この日は秋の晴天に恵まれることが多いのですが、今年は朝から何となく怪しい空模様に…。案の定、10時のイベント開始からしばらくして、ポツポツと冷たいものが落ちてきました。露天で行う予定だった「綿菓子」コーナーでは、急きょテントの中で行うよう道具類の配置や順番待ちの列の並びなどを変更して対応しました。幸い大した降りにはならず、来場された方々への影響はさほどないままイベントを続けることができました。

それにしても、こうした非常事態で頼りになるのは、やはり慣れたスタッフのマンパワーです。「綿菓子」コーナーではテント設営や配置変更を余儀なくされましたが、チーフ職員を中心にボランティアスタッフが一丸となってきばきと作業を行い、かつお待ちいただいたお客さんには丁寧な対応を終始忘れませんでした。こうした場面は、会場の他のコーナーでも随所に見受けられました。



雨仕様の綿菓子コーナー

このイベントが長年好評を博し、毎年数千人もの来場者に楽しんでもいただけている秘訣は、こうしたおもてなし姿勢の徹底にあるのだろうと、ひとり密かに感じ入った一日でした。

当日参加者数：5,726人

（稲坂恒宏）

活動報告

令和元年10月～令和2年3月

教室事業

実施日	事業名	参加者
10月5日（土）	親子教室 「『どんぎつね』おはなし会」	12組28名
10月19日（土）	教室 「手すきハガキ作り」	19名
10月26日（土）	親子教室 「お手玉作り」	8組19名
11月23日（土・祝）	親子教室 「羽子板作り」	8組20名
11月30日（土）	親子教室 「絵手紙で年賀状作り」	9組19名
12月13日（金）	大人向け教室 「水引き飾り作り」	19名
12月21日（土）	教室 「もちつき体験」	26名

1月19日(日)	教室 「けん玉教室」	30名
1月25日(土)	親子教室 「糸つむぎ体験」	10組21名
2月15日(土)	教室 「バウムクーヘン作り」	19名
2月29日(土)	教室 「わらざうり作り」	新型コロナウイルス 感染拡大予防のため中止
3月20日(金・祝)	教室 「ばたもち作り」	

ひろしま郷土史講座

実施日	事業名	参加者
11月9日(土)	第1講「広島藩のたたら製鉄のあゆみ」	55人
12月14日(土)	フィールドワーク 「まぼろしの運河・平田屋川ー並木通りのルーツを求めてー」	20人
1月11日(土)	第2講「『広島町新開絵図』にみる浅野時代の広島城下」	48人
2月8日(土)	第3講「江戸時代の水辺の風景」	41人
3月14日(土)	第4講「安芸の名産・特産」	新型コロナウイルス感染拡大予 防のため4月26日へ延期 →臨時休館延長に伴い中止

その他の事業

実施日	事業名	主催等	参加者
10月26日(土)	講演「広島県の歴史、戦時下の人々の暮らし」	平和記念資料館	52人
10月27日(日)	工作指導「みつばちのからくりのぼり人形作り」	秋のグリーンフェア 2019実行委員会	200人
11月11日(月)	講演「広島県の復興のあゆみ」	広島県生活協同組合連合会	17人
12月9日(月)	授業「博物館資料論」	広島市立大学	27人
12月18日(水)	講演「買物案内記にみる明治初期の広島」	中央公民館	41人
12月21日(土)	講演「浅野家と広島」	早稲田公民館	29人
1月9日(木)	授業「文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会・白島小学校	66人
1月22日(水)	授業「文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会・幟町小学校	70人
1月29日(水)	授業「文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会・竹屋小学校	37人
2月7日(金)	講演「江戸時代の広島～知られざる身近な 史跡を探る～」	五日市中央公民館	50人
2月20日(木)	授業「文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会・袋町小学校	38人
2月23日(日)	講演「『広島町新開絵図』にみる浅野時代の 広島城下」	安佐南区図書館	29人
3月9日(月)	ラジオ出演「西国街道の歴史話」	中国放送ラジオ制作部	—



教室事業の様子(11月23日「羽子板作り」)



学芸員による出張講演(2月23日 安佐南区図書館主催事業にて)

令和2年度(2020) 展示紹介

企画展 安芸の名産・特産ー広島藩の殖産興業

令和2年3月7日(土)～5月6日(水・振)

→臨時休館延長に伴い開催日未定～7月5日(日)まで会期延長(3月31日現在)

江戸時代、広島藩内で生産された牡蠣、海苔などの特産品を取り上げ、その消長について紹介します。

大日本物産図会 安芸国広島牡蠣養之図(当館蔵)



パネル展示 すずさんの四季のくらしノート

令和2年2月28日(金)～5月6日(水・振)

→臨時休館延長に伴い7月5日(日)まで会期延長(3月31日現在)

映画「この世界の(さらにいくつもの)片隅に」で描かれた戦時下のくらしと四季折々の風物詩にスポットをあて、映画のシーンやこれに関する生活風景をパネルで展示、当時の生活や四季のくらしを点描します。



(c)2019 こうの史代・双葉社/「この世界の片隅に」製作委員会

企画展 夏休みおばけの博物館

令和2年7月18日(土)～8月23日(日)

おばけの多様な世界や、おばけを生み出した昔の人々の生活を紹介します。

妖怪狼猴像
(当館蔵)



企画展 『ごんぎつね』が語る昔のくらし

令和2年9月5日(土)～11月29日(日)

新見南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーをまじえながら、童話に登場する昔の道具や人々のくらしを紹介します。



特別展 広島県の災害の歴史

令和2年12月12日(土)～令和3年2月28日(日)

近年特に注意喚起がなされている集中豪雨や土砂災害をはじめ、地震や水害など過去の事例をとおして、広島県の町の人たちと災害対策に関する先人の取り組みについて紹介します。

矢野町に残る
水害之碑
(当館撮影)



企画展 福井芳郎とがんす横丁の世界

令和3年3月13日(土)～令和3年5月5日(日・祝)

戦前の広島県の路地や盛り場、世相、風俗について紹介した『がんす横丁』(シリーズ全4冊)に掲載されている地元の作家・福井芳郎氏によるさし絵の原画を中心に、当時の町や一般の人々の生活の様子を紹介します。



「旧広瀬町電停」福井芳郎 画/広島市公文書館蔵

なお、令和2年5月17日(日)～7月5日(日)に開催を予定しておりました企画展「五輪 ああ頃の広島～56年前の広島～」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館および東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催延期に伴い、令和3年度開催に変更となりました。また、今後の感染拡大状況により、展示会期や教室事業等の変更や中止の可能性があります。皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご承知くださいますようお願い申し上げます。最新の情報は当館ホームページまたは電話にてご確認ください。

ひろしま郷土資料館だより No.99

令和2年(2020)3月31日発行

編集・発行 (公財)広島市文化財団 広島市郷土資料館

734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 FAX (082) 253-6772

URL <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

